B06 島嶼を含む列島各地におけるライム病関連ボレリアの調査, 2004年の成績と考察

○石畝 史¹, 高田 伸弘², 藤田 博己³, 矢野 泰弘², 溝口 二郎⁴, 田原 研司⁵, 川端 寛樹⁶, 増澤 俊幸⁷(¹福井県衛環研, ²福井大・医, ³大原総合病院・大原研, ⁴山形県衛研, ⁵島根県保環研, ⁶国立感染研, ⁷千葉科学・薬)

Survey of Lyme disease-related borreliae in Japan including some islands in 2004

Ishiguro, F., Takada, N., Fujita, H., Yano, Y., Mizoguchi, J., Tabara, K., Kawabata, H., Masuzawa, T.

科研調査「アジアにおける節足動物媒介感染症の拡散様式」の対象は多様で, 国内についても大陸と関連が問われる地域を調べる必要がある。ここでは, ライム病関連ボレリアの 2004 年調査結果を報告する。試料はすべて小哺乳類で, 7 月に山形県鳥海山系で *Borrelia japonica* 1 株, 8 月に青森県白神山系・津軽地域で *B. japonica* 4 株, また 11 月に島根県隠岐諸島で *B. tanukii* 3 株を得たが, 9 月の鹿児島県屋久島, 11 月の同県トカラ列島中之島および 12 月の沖縄県八重山諸島では分離をみなかった。以上から, 東北地方では, 従来の調査と同様に *B. japonica* が多い一方, 大陸共通 *Ixodes persulcatus* による *B. garinii* や *B. afzelii* の密度は薄く, その分, 北海道や中部地方と比べて感染率は低いと推測される。一方, 隠岐諸島で *B. tanukii* が優先する状況は, 朝鮮半島に続く同じ大陸棚に位置する対馬と類似し, *I. tanuki* を介した大陸との関連が興味深い。一方, 南西諸島方面で分離をみなかった点は, 本土と共通性の屋久島高山帯は別にして, 改めて東南アジア系ボレリア種の検索の必要性を示している。

B07 1999 年から 2004 年までに愛知医科大学で同定されたマダニ刺咬症

○角坂 照貴, 木村 英作 (愛知医科大学寄生虫学講座)

Tick bites identified in Aichi medical University between 1999 and 2004

Kadosaka, T., Kimura, E.

46 症例, 8 種.

1. タネガタマダニ *I. nipponensis* 2 ♀・岐阜 1, 静岡 1
2. ヤマトマダニ *I. ovatus* 6 ♀・静岡 1, 長野 1, 愛知 1, 岐阜 1, 神奈川 1, 栃木 1
3. ヒトツトゲマダニ *I. monospinosus* 5 ♀, 1 若虫・岐阜 3, 秋田 1, 静岡 1, 不明 1
4. *I. holocyclus* 1 ♀, オーストラリア(輸入症例)¹⁾
5. タカサゴキラマダニ *A. testudinarium* 12 若虫, 3 ♀, 2 ♂, 2 幼虫・岐阜 13²⁾, 静岡 5, 不明 1
6. フタトゲチマダニ *H. longicornis* 9 ♀・岐阜 3, 愛知 3, 静岡 2, 栃木 1
7. キチマダニ *H. flava* 1 ♀・栃木 1
8. オオトゲチマダニ *H. megaspinosa* 1 ♀・岐阜 1³⁾

既報告 1) 曾和ら (2001) 皮膚, 43 (1), 62-66
 2) 前田ら (2003) 西日本皮膚, 65 (1), 38-40
 3) 静島ら (2000) Eur. J. Dermatol. 10, 389-391